



岸本辰雄は嘉永4年(1851)、鳥取藩士・岸本平次郎の子として生まれ、幼名を辰三郎といたしました。辰雄は鳥取藩の藩校「尚徳館」に学び、明治時代の初めには鳥取藩の代表として大学南校(のちの東京大学)の貢進生に選抜されました。卒業後、司法省の法律学校でフランス法学を学び、数年間のフランス留学を経て、帰国後の明治14年に明治法律学校(のちの明治大学)を創立します。彼は明治大学を創立したばかりではなく、のちに大審院判事や東京弁護士会の会長などを務め、明治時代の法曹界で活躍しました。

近年、明治大学の調査により、岸本辰雄の生家が「上町」であることが判明しました。幕末期の安



明治大学の創立者 岸本辰雄の周辺

政6年(1859)に父平次郎ら4人で測量して作成した「鳥取城下町絵図」に、「岸本平次郎」の名前(屋敷を示す)が、非常に小さな字ではありますが、書かれていることでわかったのです。その場所はやまびこ館の駐車場の横でした。

岸本辰雄の生涯と明治大学の歩

おうちだに画報

みを紹介した展覧会を、ぜひこの機会にご覧いただきたいと思います。
(やまびこ館学芸員 伊藤康晴)

岸本辰雄と明治大学

- 一鳥取出身士族の挑戦一
- ▷と き 3月4日(土)~26日(日)
午前9時~午後5時
 - ▷入館料 一般500円
(小・中・高校生、70歳以上は無料)
 - <関連事業>
 - ▷「日本初の女性弁護士 中田正子」
▷と き 4月15日(土)~5月21日(日)
 - ▷ところ 鳥取市歴史博物館やまびこ館
 - ▷「岸本辰雄先生顕彰碑除幕式」
▷と き 5月13日(土) 午前11時
 - ▷ところ 県民文化会館の一角
(若桜街道沿い)
 - ▷主催 明治大学校友会鳥取県支部
(同実行委員会事務局)
☎(0857) 22-3444
 - 問い合わせ先 やまびこ館 上町88
☎(0857) 23-2140



わたなべじゅんいち 渡部潤一さん天文講演会

宇宙生命へのアプローチ 一天文学者の挑戦一

と き 3月19日(日)
午後3時30分~午後5時

講師 渡部潤一さん
(国立天文台天文情報センター広報室長)

参加費 一般300円、高校生以下および70歳以上無料



内容 天文学者は、いま宇宙生命の謎にいくつかの方法で積極的にアプローチしています。ひとつは生命の材料となるものがどのようにしてできたか、という謎を解くことです。その答えは星にありました。私たちを含む生命の源は星のかけらだったのです。でも、かけらが揃えば生命が発生するというわけではありません。地球のような環境が必要となるのです。

では、宇宙には他に地球のような星や生命があるのでしょうか? 天文学者は他にも太陽系のような集合が存在し、その中心となる星の周りにも惑星が存在することを発見しつつあります。どうやら、われわれの地球のような惑星が見つかるのは時間の問題のようです。観測技術が進んでくれば、地球のような惑星が、そして、そこに生命の存在を示す何かが発見されることも夢ではありません。

佐治天文台長 香西洋樹の「空の向こうに見えるもの」 Vol.6 夜空の動物園

春の兆しを感じられるようになってくると、夜空を飾る星たちにも変化が現れ始めます。北の空には北斗七星が昇り始めますが、これは「おおぐま座」の一部で、大熊の尻尾にあたります。尻尾を掴まれて、天に投げ上げられたので尻尾が異常に長いと、ギリシャ神話は伝えています。日本など北半球で見ると、「おおぐま座」は足を上にした姿で、その足下には小獅子を背負ったしし座が、大きな鎌首を持ち上げて駆け上ります。

夜空をかざる星たちが形づくる動物たち。あたかも動物園のようです。これらはいずれも北半球生まれの星座で、足を下に、つまり、南にして歩む姿をしています。

地球上で最初に文明が生まれたのは、現在の中東地域でイラン、イラク付近だと言われています。そこで生まれた文明が、ギリシャ文明に引き継がれ、ギリシャ神話として現在まで伝えられていると言われています。足を南に向けた動物の星座。そして、南半球では同じ星空を見ても、全く違った世界が展開されているのでしょうか。夜空に残る、世界文化遺産ですね。

